

工藤篤子メールマガジン 30号

2003.06.16

●ドイツに戻って感じたこと・・・

こんにちは、工藤篤子です。

6月10日、無事ハンブルクに到着しました。今回も、前回の帰独の時とまったく同じように、ハンブルクに到着した途端、大きな静けさの中に包みこまれました。家に着くなり、窓の外の3本の大木が青々と葉を茂らせている姿と、青空にこだまする鳥たちの美しい合唱に、涙が出るほど感動しました。昼が一番長い季節、北欧の白夜とまではいかないにしても、北ドイツは夜11時ごろでもまだ薄明かりが残ってきます。



●ドイツに戻って感じたこと・・・

日本では、電車に乗るにも降りるにも、われ先にと皆急ぐため、ぐずぐずしている私はその速さについてゆけず、人の流れが途絶えるまで数分立ち止まるということがしばしばあります。けれども、ヨーロッパに戻った途端、飛行機の通路を隔てて座っていた男性は、降りる時には、笑顔で「どうぞお先に」、と先に通してくださるし、人々の動作がゆったりとしているので、私は久しぶりにやっと深呼吸ができた、という感じでした。日本はほんとうに忙しいです。「忙」と言う字は、「心を失う」と書きますが、忙しくなると、人のことを思いやれなくなり、心を失ってしまうのはほんとうですね。私も、日本での忙しさのなかで、人々への配慮に欠けてしまうことが多々あったと反省しました。皆さん、余裕があれば、是非ヨーロッパにいらしてください。そして、こちらのゆったりとした生活のテンポの中で、しばし安らいでみてはいかがでしょうか。

●ヨーロッパ賛美ツアー(6月19日～28日):お祈りください

数ヶ月前から皆さんにご案内していましたヨーロッパツアーが、いよいよ19日から始まります。参加者は、81歳の方がお二人、70代がお二人、といっても、皆さん、とてもお元気な方たちです。そして、若い(?)女性4名、合わせて8名のツアーです。また、女医さん、元看護婦さん、薬剤師の方と、万が一のときのために主が備えてくださった素晴らしいメンバーです。ツアーの最後の夜は、オランダ日本語教会にて、私の賛美、そしてオランダ日本語集会の皆さんとのお交わりを予定しています。きっと祝された旅になると信じています。どうぞ皆さんも私たちの旅のためにお祈りください。特に、参加されるノンクリスチャンの3名の方々の救いのために祈ってください。

●日本での活動報告

順序が逆になりましたが、日本での活動のためにお祈りくださり、ここから感謝いたします！途中、札幌で風邪をひいて寝込みましたが、主はすべてのコンサートを祝してくださいました。特にうれしかったのは、コンサートを通して、救い、受洗、礼拝出席、教会での聖書の学びにつながる人々が起こされたことです。また、去年のコンサートに来て下さった何人かの方から、「あの後、受洗しました。」というニュースをいただきました。そのうちの二人が、CD「Come To Me」を毎日聴いて心が癒され、受洗に至った、と伝えてくれました。またやはり「Come To Me」を聞いて、自殺を思いとどまり、神に悔い改めたというアメリカ人がいます。この方はCDを聴いて「自分よりもっと悲しんでいる人がいる。この人（工藤）の声はもっと悲しみ、泣いている。」と感じたそうです。私はこの話しを聞いた時、天の御父は自殺しようとした彼女を思いとどらせるために、私のCDを用いて彼女に語りかけてくださったに違いない、と思いました。すべてのことを、主に感謝いたします！

●CD 録音報告

CD 録音も、声の録音はすべて終了し、あとは、ところどころシンセの音をかぶせる作業が残っているのみとなりました。レコーディングでは、ほんとうに疲れ果てました。コンサートなら、うまく歌えようが失敗しようが、「主よ、あなたがみ業をなしてください。」と神により頼んで賛美できるのですが、CD となると一生残るものなので、歌唱に関しても大変シビアになってしまいます。それで何度も入れ直すのですが、その度に、心から主を賛美しているものでなければなりません。ですから毎回精一杯歌うのです。そして、今度はうまく歌えた！と思ったら、ピアニストが音をうっかり間違えたり、そうやって何度も歌うと、声が疲れてきて・・・と、なかなか大変なのです。でも、すべては主の御手の中にあります。このクリスマスCDも、「Come To Me」のように主に用いていただけたらと願っています。イエス様の福音を伝えるために。

「全世界に出てゆき、すべての人に福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ 16:14）

また、ヨーロッパツアーから戻りましたら報告させていただきますね。
どうぞ、この6月、主にあって幸いな日々でありますように。
祝福を心からお祈りしています。

感謝とともに

工藤篤子